

# 真宗大分

## 教区若婦人間法の集い

### 第17回仏教若婦人(女性)大会 プレ大会開催さるー

大会速報(かわら版)第三号で、ご紹介しましたように、七月八日に、四日市別院を会場に、十月の本大会のプレ大会と位置づけ、大分教区若婦人(女性)間法の集い”が開催されました。集いには本大会講師の梶原陽子さん、季平博昭さん両名を講師としてお招きし、本大会には年齢制限で参加いただけない会員さんをはじめ、仏婦(親婦)会員さんのご参加をいただき二〇〇名を越える女性の集いとなりました。以下、「かわら版」

第三号から、感想を再掲いたします。



梶原さんの、基調講演では、梶原さん自身が生まれ、そして現在取り組んでおられることを、とても熱く語っていた。涙される参加者の姿であふれていました。講演後には、「若いうちにこのお話を聞いてたら間違わなかったのに」、「うちの嫁にぜひ聞かせてやりたい。十月の大会に参加させたい」などの感想が聞

第120号  
創刊 昭和41年8月  
発行所  
大分教区基幹運動  
推進委員会  
〒874-0920  
別府市北浜3丁目6-36  
本願寺別府別院内  
TEL 0977-22-0146



梶原陽子先生

季平さんのまとめの講話は、午前中の梶原さんの講演を受け、さらに、この私の問題、がんばれない姿、このまんまの私など、講題の「ともにいのちかがやく世界へ」



かれました。

をもとに、自身の経験から身近に、お話しいただきました。本堂の中は、笑いに包まれたり、大いになうなういたり時間を忘れて聞き入っていたようでした。「先生の語りに引き込まれ、やさしく話していただき、法話をはじめ素直に聞けた」、「私のこととして聞いていきたい」などの感想が聞かれました。



また、本大会では、話し合い法座(分散会)を行います。法座の座長さんを対象とした研修会が八月二十六日、別府別院で開催されました。この座長さんも四十五歳以下の年齢制限を設けたため新たに募集をいたしました。中には初めて、お寺に関わる方もおられ、不安いっぱい参加者の姿も見受けられました。研修会では、先の季平さんを講師に、グループワークや進行、そして大会のテーマ「い

だかれて」について、集中して学んでいただきました。なお、当日参加出来なかった方、まだまだ不安な方のため、研修会も予定しておりますので、より深く学んでいただけるものと思っております。



いよいよ来月に迫った、若婦(女性)大会です。この大会に関わっていただいた若婦人みなさんが、大会後の活動の中心になっていただきたい願いも持ちつつ、準備をすすめております。教区の皆さまには、どうぞあたたかいご協力をお願いいたします。

(田原編集委員)



県幹運動のページ

― 広報活動の充実に向けて ―

広報部員、本山で研修

「真宗大分」や「法の海」を編集している大分教区広報部では、本年六月二十七日、広報活動の研究のため、ご本山西本願寺に研修旅行を企画した。国内・海外の教区報・寺報など、ご本山に集まってくる新聞類を見て、今後の参考にしようというわけである。

☆ ☆

当日は、十二時三十分には宗務総合庁舎一階に参集し、午後一時より渉外・広報担当の中村澄枝総局公室部長にご案内いただき、庁舎地階の資料室に入り研修を開始した。資料室には、全国各地から寄贈された寺報・組報・教区報を始め、海外開教区のニュース、他宗派の広報誌など、数多くの広報紙誌が集積されて

いる。四時間弱の限られた時間で調べ尽くせるはずもないが、部員一同、今後の教区報や寺報の編集の参考にしようと目を通していった。

☆ ☆

寺報・教区報を問わず全体的に、文字数を少なくし写真を多く載せる傾向が強まり、カラー印刷されたものが多くなっていると感じた。また、B5版からA4版への変化、縦書きから横書きへの流れも感じられた。その意味では、「真宗大分」・「法の海」ともに改善の余地が大いにあるので、今後検討していきたい。

☆ ☆

夜には、企業への協賛依頼

のために京都を訪れた若婦九州大会実行委員さんと合流し、中村部長を囲んでの懇親会を持つことができ、大変有意義な研修となった。

☆ ☆

そもそも、今回の研修旅行は、二年に一度開催してきた大分教区寺報講習会(寺院教化広報活動研修会)の参加者減少がきっかけとなって企画された。参加者減少の原因としては、蓮如上人五百回遠忌法要において御門主様が寺報



の発行を呼びかけられたことやパソコンソフトの充実により、教区内でも多くの寺院で寺報が発行されるようになったことと、インターネットや『宗報』等での情報の普及により、講習会で学ぶことへのニーズがなくなっていることが考えられる。

☆ ☆

また、例えばかつて厳禁であったハラキリがコピーしやすいうように全国紙でも公然と行われるようになったり、情報重視から見やすさ重視へと価値観が変化したりして、画一化された編集方法というものもなくなってしまう現状もあり、寺報講習会そのものが成立しない時代になったとも言える。

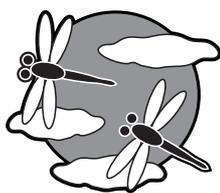
今回の研修旅行は、教区報編集者として広報部員自身が学ぶと同時に、寺報未発行の寺院に対してどのようなアプローチが可能であるかを考える機会となった。

☆ ☆

最後に、寺報未発行の寺院の皆さんへ、現状での提言を一つ。

大分教区広報部では、寺報の代わりとしてご利用いただけるように門信徒向けの広報紙「法の海」を年二回、七月と十一月に発行しています。夏の号はお盆など夏の法座案内と一緒に、冬の号は報恩講法要の案内と一緒に、御門徒様に配布いただければ有り難いと存じます。寺報発行体制を整えるまでの一時的な利用で結構ですので、どうぞ御購読いただきますようお願い申し上げます。

(大分編集委員)



# 城下町中津に 念仏の礎を

## 各組 めぐり ⑪ 中津組

### 県北の地 中津組寺院の概況

中津組は、駅を中心（車で十分以内）に十二ヶ寺、沖代平野を囲むように三ヶ寺、旧三光村に一ヶ寺、狭い範囲に十六ヶ寺の寺院が教化活動に専念しています。駅のホームに立てば、ほぼ全ヶ寺が見える（位置が分かる…）ため、十六ヶ寺回っても一時間はかかりません。近隣寺院が多いため、寺族の会合も多く、知恩講（住職）・坊守講（坊守）・若藤会（若坊守）と、各寺持ち回りで毎月開催され、仏参法話聴聞後、連絡事項や議題にそった話し合いや研鑽が行われています。

### 若返りの組に

今年度から大遠忌法要に向けての五年任期の執行部は、

五十歳代の組長に、四十歳代の相談員、副組長二名です。前住職様方が後継住職に譲り早めに退任され、三十〜五十歳代の住職が多くなりました。年輩住職や前住職方が、後ろから前から後押し補佐し、若住職新院も話し合いの中で、若い中津組が動きだしました。

組の基推の組織は、十五の教化部門に別れており、全法中（一部坊守）が役割されています。前任・住職・新院合

わせると、二十数名もの法中は、兼職者は少なく、法務に励んでいます。そのため、全寺院を二班に分けて、連研講師陣や年二回の布教大会出講、また相互扶助制度引き受けもこなしています。

### 組活動の活性化を

組と教区との連携を深めるために恵まれていることは、組内住職、門徒が、教区相談

員・宗会議員・仏婦連盟委員長・少年連盟委員長・仏青連盟委員長の役職を任されているため、教区教団の意向を聞きつつ、組活動の活性化にむけて助言をいただけることで

各種研修会の他に、特に連研は、婦人会の連研を二十数年続け、その後現在教団の推進する「話し合い法座」の連研に移行して五期目に入りました。今年初めて中央研修へ四人の修了生が参加することになり、今後門徒推進員として、連研や各寺の中で活躍することを期待しています。

本年度は、中津組の仏婦連盟発足五十年を迎えるため、来春の記念行事祝賀会に向け



第5回・大分教区・中津組合掌子ども会・児童念佛奉仕団

ただ今準備の最中です。また、今年の夏休みは、第五回目となる児童念佛奉仕団に参加してきました。

社会に向けては、組で作成した「葬儀のしおり」配布にあたり、市内の葬祭業者との情報交換を交えた勉強会を開催し、本来の浄土真宗の葬儀の有り様について、話し合いの場がもたれました。迷信俗信の打破は、まず葬祭場から：二回目も開催予定です。

### 独自の活動として

中津組には、伝灯奉告法要後に始まった相互扶助制度があります。法座の講師依頼や葬儀法事の加勢を組で受け、二班態勢で援助しています。特に、代務住職の寺院に対しては後継住職が育つまで、当該寺院の負担を減らすためにも、相互援助していく態勢をとっています。

親鸞さまに聴く会も、四十三年目を迎えます。記念大会講師には、第三十回は永六輔さん、第四十回はひろさちやさんをお招きし、ご講演いた

いただきました。門信徒と僧侶一丸となって、ご法義繁盛のため邁進しています。



40回記念大会にて臨時の組コーラス結成

### 今後の課題の活動

近隣に増えた老健施設等におけるビハーラ活動への取り組みを準備中です。まず、組単位で出来る事からと、法話会や傾聴ボランティア等、まず寺族自身が研修研鑽をつんで、門徒と共に動き出そうとしています。

『ともにいのち かがやく世界へ』のスローガンのもと、大遠忌法要に向け、門徒と僧侶の間でともに課題を共有しながら、基幹運動を推進していきたいものです。

（中津組組長記）



## 本願寺展 — 親鸞と仏教伝来の道 —

九州国立博物館 3階特別展示室

親鸞聖人七五〇回大遠忌記念として平成十九年九月十二日(土)～十一月十八日(日)に開催される。

この『本願寺展』は親鸞聖人七五〇回大遠忌記念事業の一環として開催されるもので、数ある本願寺ゆかりの文化遺産と美の中から、国宝四件、重要文化財二四件を含む約一三〇件が一同に会します。九州の地では初めての大規模の本願寺展となります。

この機会に是非展観されますようお願いいたします。展覧会は全四章から構成されることとす。

第一章 親鸞聖人の事蹟と信仰

第二章 本願寺歴代の肖像と聖教

第三章 ゆかりの至宝 — 名筆・茶の湯・障壁画 —

第四章 大谷探検隊と仏教伝来の道

【主な展示作品】(一)内は展示期間。親鸞聖人熊皮御影(十月三三日～十一月十八日)

観無量寿経註(九月二二日)十月二二日)・阿弥陀経註(十月三三日)十一月十八日)。慕帰絵・歎異抄・三十六人家集は、期間内にページ替・場面替はあるものの全期間展示がなされる。

大谷探検隊将来の伏義女媧図(ふくぎじよかず。九月二二日)十月二二日)、菩薩頭部(全期間)などが展示される。期間中は、出陳作品の保存の観点から、頻繁に展示替・場面替・ページ替を行う予定。「展示替スケジュールについては、展覧会会場内のパネル・配布リーフレット等でお知らせいたします」とのこと。会期中「大谷探検隊と仏教伝来の道」に関連するシンポジウム開催予定。本稿はホームページ「九州国立博物館」より作成。(北畠編集長)



大谷探検隊将来の菩薩頭部

### およろこび記事

【法要】

大海組 妙蓮寺

平成19年4月29～30日

蓮如上人五百回遠忌法要

新築・改築落成慶讃法要

記念法話 小山一行師

豊後高田組 西生寺

平成19年5月13日

第十四世住職継職奉告法要

本堂改修落成慶讃法要

寺基四百年記念法要

記念式典・法話 佐藤哲英師

【任職就任】

胤末 宣明(平19・7・23)

水智 浄志(平19・8・6)

摂受 定信(平19・8・15)

### おくやみ

次の方々のご逝去されましたので、生前のご苦勞を偲び謹んで敬弔の意を表します。

○森部 弘信(平19・5・21)

日田組 浄徳寺 衆徒

○小野 一枝(平19・5・29)

日田組 円成寺 坊守

○大畑 千鶴(平19・6・18)

豊後高田組 仏照寺 前坊守

○摂受 静波(平19・6・30)

中津組 光榮寺 住職

### 編集後記

先日、福岡の高等裁判所の見学に行ってきました。飲酒運転で子どもさん三人が亡くなった裁判が行われ、テレビで放送されたところです。傍聴席・検察官席・弁護士席・裁判官席に座らせてもらいましたが、被告人席には…、やっぱり座りたくない席ですね。でも、建物はきれいで、明るくしてありました。ただ、事件の内容は、だんだん深刻・複雑になっていくようで、部屋数や広さがたらず、増やさないと対応出来ない、聞きました。

これから、「裁判員制度」が始まります。二年後には、あなたも裁判員になるかもしれません。テレビを見ながら、責任はありませんが、裁判では人の生死がかかわってきます。「いのち」に対する、自分の思いが問われるような気がし、胸がきゅっと締めつけられるようでした。

(佐藤編集委員)

○中尾キヌ子(平19・7・16)  
下毛中組 浄福寺 前坊守  
○首藤 常信(平19・8・26)  
大海組 福正寺 衆徒